

あさひかわ 西高通信

Vol.28

発行：旭川西高東京同窓会

事務局：〒350-1213 埼玉県日高市高萩2096-10 渋谷方

電話090-6105-7957

ホームページ：http://web.me.com/eos_1/



東海汽船㈱・ヴァンティアン号

三〇回記念総会特集号

実行委員長挨拶



二四期
荒明 浩登

第三〇回記念総会の実行委員長を務めさせて頂きます二四期の荒明です。今回で二度目となります。

思い返せば、六年前の夏に当時の執行部の方から「呼び出し」があり、それをきっかけで二四期の同期を探して集まり始めて、二五回記念総会を実行委員として無事担当する事が出来ました。それから今まで、同期の集まりも年二回以上の旅行会を含め二ヶ月に一度は行い、三〇年ぶりの旧交を温め五十歳からの人生を楽しく過しています。これもひとえに東京同窓会のお蔭と感謝しています。

そんな中、今回の三〇回総会の実行委員担当期の二九期が組織化出来ず、実行委員が不在という事態になりそうでしたので、少しでも東京同窓会に恩返しが出来たらと思い、二度目の実行委員をお引き受けしました。

第三〇回と「曲がり角」



旭川西高
東京同窓会会長
十八期
洪谷 正利

二〇一一年は東日本大震災と福島第一原子力発電所の事故、台風被害等など、未曾有の災害の年でした。その中にあって東京同窓会の皆様にはご健勝にてお過ごしのことと祈念致します。また被災者の皆様へ改めてお見舞い申し上げます。

第二九回総会は、大震災直後でしたが、大震災支援を柱の一つとして無事開催され、その中で多くの大震災支援の働きがありました。「西高精神」が遺憾なく発揮されたものと誇りに感じました。さて、第三〇回目の総会準備が二四期の皆さんを中心によって進められています。また、「西

高通信」の編集が一四期の皆さんによって進められています。予想された事とはいえ順送りの二九期が実行委員会を組織することができずに支援期が中心となつて準備に当たらなければならなくなりました。六年前にも一度ありましたが、奇しくも記念すべき第三〇回総会からは、ほぼ毎回同様の体制とならざるを得ません。

先輩方が築かれたしっかりした組織と同窓生の母校への強い思いがあるとは云え、曲がり角にきていることは否めません。前回二九回から始めてきた試行錯誤ではありますが、皆様のご支援によって楽しい総会を開催し、今後に繋げていきたいと考えています。

今回は、第三〇回を記念し、東海汽船様のご協力により、ヴァンティアンクルーズを借り切つての開催となります。それでは、四月二一日、船上でお会いしましょう。

第30回記念の総会は東京湾クルージング!!

【開催概要】

開催日 2012年4月21日(出) 11:50~14:00

(受付時間:11:00~11:50)

竹芝棧橋東海汽船待合スペース特設)

(乗船開始:11:30~11:50)

会場 東海汽船㈱ ヴァンティアンクルーズ (竹芝棧橋出航)
アクセス=JR浜松町駅北口より徒歩7分、
ゆりかもめ竹芝駅徒歩1分
ヴァンティアン号「東京湾ランチクルーズ」貸し切り
(1,717トン、64.8m、最大700名収容)

会費 ◎一般会員:8,000円(別途1,000円年会費)
◎現役学生:無料(別途1,000円年会費)

招待恩師 14期推薦:高橋 正幸先生(国語)
24期推薦:朝野 隆先生(社会)

テーマ **「再びの船出」**
※震災からの復興に向けた船出、同窓会として新たな体制の船出、そして一人ひとりが想いを巡らしての船出

**出航時間に遅れますと参加できませんので、
時間には十分余裕を持ってお越しください。**

未来を膨らませる



旭川西高校長 井戸 尚貴

東京同窓会の皆様には日頃より本校の教育活動に対し、多大なご支援を賜り、特に、リンケージ・アワードは生徒にとりまして大きな励となる企画であり、衷心より感謝を申し上げます。

学校に隣接する同窓会館に年々何度か訪れますが、その度に新しい出会いがあります。百年の歴史、そのことの意味を改めて重く感じています。明治四十年、第一期生が見た学校の様相と今春入学した第百五期生が見る様相は大きく違っています。生徒の学校生活に対する思いに大きな違いはないと思います。生徒の思いを受け止め、教職員

一日も早い復興を



旭川西高同窓会長 十九期 高野 正夫

初冬の候、旭川西高東京同窓会の皆様、御無沙汰しております。今月十一月二十三日は雪で旭川は真白です。お変わりなくお過ごしのこととお慶び申し上げます。

三月十一日の東日本大震災の際、同窓の皆様、御家族の方には、少なからず被害に遭われ、大変な御苦労をされ、こちらは何も出来ず、ただただお察しするばかりで御許し下さい。東日本、特に福島以北の、一日も早い復興を心より御祈念を申し上げます。旭川駅舎が十一月二十三日(本日)に完成オープンいたしました。ヨーロッパ調の素敵な駅に生まれ変わりました。神楽に渡る橋(氷点橋)も架かり、新駅東口から数分で歩いて神楽に行けます。更に新駅西口(宮下六丁目)からも橋(クリスタル橋)が二年以内に架かります。更に忠別川周辺の公園化、宮下から宮前に至る道路周辺整備とこの数年で一変するでしょう。しかし買物公園通りは寂しい限りです。丸井デパートの跡は旭川

ますので期待しております。さて、第三十回東京同窓会は「再びの船出」をテーマとしてヴァンテアンクルーズを借り切る企画、大変驚いており、そして楽しみにしています。成功ま

ちがい無し。誠におめでとうございませう。二十四期の方達が中心となって準備するという事ですが、大変な御苦労をお掛けします、一致協力して乗り切ってください。四月二十一日、ヴァンテアンクルーズにてお会いする事を楽しみにしております。それでは、お体を大切に。そして御家族の御多幸を祈念申し上げます。

招待恩師から

『古い上着よ。サヨウなら』



恩師 高橋 正幸 (昭和二十八年、四三年・国語)

昭和二十八年五月、西高屋内運動場の壇上で、谷地校長より新任の紹介を受けた。その日以来喪われた青春を取り戻すべく管理指導を忘れ只管(ひたすら)生徒の中にとびこんだ。フォー

卓球。壮大ではないが機智に富んだ万灯行列。夜天を焦がすファイヤーストームの余韻に浸り、若さに頼まれる運動の各部長に定見もなく着いた。しかし貧しくとも夢があった。街には「青い山脈」の軽快なリズムが流れていた。

デモ、シカ先生(あれでも先生。先生にしかかなれない)という流行語ができたのはそんな時だろうか。私を含めてそんな先生が多かった。先生は皆別名で呼ばれていた。ヌキ・オッチョ・ロンゲ……。私はボッチャン。質問があれば、例えば『枕草子』

V. Restaurant Ship Vingt et un

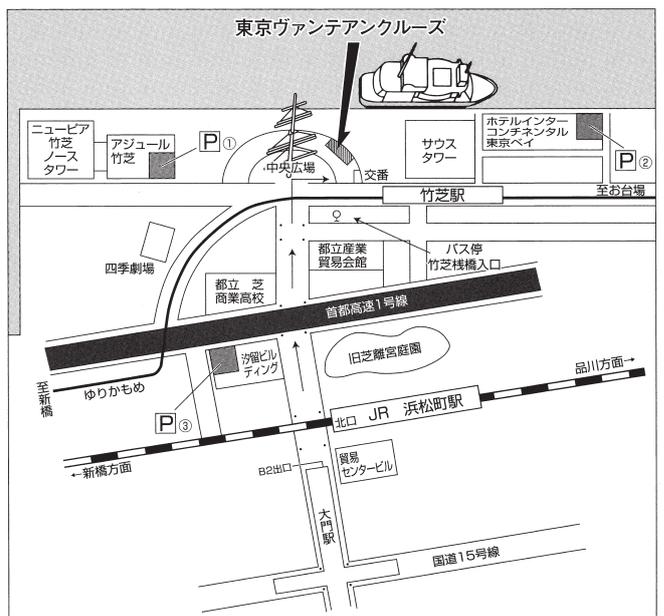
ご案内図

●交通のご案内

- JR(山手線・京浜東北線)浜松町駅北口から...徒歩7分
地下鉄大門駅(B2出口)から...徒歩10分
ゆりかもめ竹芝駅から...徒歩1分
羽田空港から:
モノレール23分+モノレール浜松町駅から...徒歩9分
お車をご利用の際は首都高速1号線芝公園ランプ、汐留ランプより約15分です。
ゆりかもめをご利用のお客様
改札口を出て階段を地上まで降りて頂いて、竹芝客船ターミナル内のヴァンテアンクルーズ受付までお越し下さい。

●駐車場のご案内(普通乗用車)

- ① 30分 ¥300 (24時間 屋内)
② 30分 ¥300 (24時間 屋内)
③ 30分 ¥300 (7:00~24:00 屋内) <1日最大2,000円>
※③のみお返りの際に乗船券をご提示いただければ1時間分(600円)サービス!
詳しくはこちら → TEL 03-3431-4332



東京ヴァンテアンクルーズ株式会社

〒105-0022 東京都港区海岸1-12-2 TEL. (03)3436-2121 FAX. (03)5472-0121

ホームページ http://www.vantean.co.jp

出会いに感謝して、 今を生きる



恩師 朝野 隆
(昭和四三年・
五六年・社会)

の鳥が三つ四つ、二つ三つ、などであるのを「どうして二つ、三つ、四つ、と言わないのか」と言うのに対しては「清少納言は寝ぼけていたのかも」と答え、女の裸体像贈与には「私はあなたにアイウエオ。だから手紙をカキケケコ。そしてポストにサシセソ。やがて十日もタチツテト。未だ返事がナニヌネノ」と応じる。裸体像を幾重にも巻いた紙には「私は貴女にホーレン草。もしもニンジン(妊娠)したならば、可愛いゴンボ(赤ん坊)抱きしめて、エンド(縁)の蔓も枯れ果てた」とある。試験の答案に「あ、先生よ、君に訴う/君苦しめ給うことなかれ/徹夜の勉強いかにばかり/身を切るものと君知るや/なき知恵絞る山掛けも/宝くじよりはかなくて/涙は瞳に溢れつつ/心は千々に砕けたり/迷いし頭のもうろうと/鉛筆立てて〇×を/占う心思いみよ/この世に一人の君ならで/あ、また誰を頼むべき/君苦しめ給うことなかれ」とあるのに対し、鉄幹の「人を恋ふる歌」のパロディで答え、「追試だ」と朱書する。生徒は一教室六〇人以上。選択制で学年の区別はなかった。学校が街中にあり、酒を飲むことは父母の間に認知され、それをいいことに放課後すぐに飲み歩いた。しかし年々シメツケが強化され、私も西高を去ることになった。十三年の西高教員生活だった。

手元に「あさひかわ西高通信 第一三号(平成九年)」があり、山本典夫・高橋正幸両先生と共に私の「我が教師人生の青春時代」という拙文が載っています。が、これまでもお誘いを受けながら一度も出席できていませんでした。

昨年二月に旭川での二九期の同期会に久しぶりに出席、多くの卒業生や元同僚と再会し、改めて西高時代の一三年間を懐かしく思い出されました。その間、二四期・二五期・二九期の卒業生を送り出しましたが、振り返ると、社会科教師としてより一部活動のことが強く印象に残っています。

大学紛争に端を発した学園紛争時、社会研究部顧問として部員からは「共に行動するか、それとも体制側か」の二者択一を迫られ苦悩したこと、伝統男子バレー部を黒瀬先生から引継ぎ、素人監督の悲しさから技術指導も儘ならずバレー部OBの協力のもと、やっと昭和五三年に高体連全国大会に出場できたこと、等々走馬灯のように思い出され、自由で自主的な校風のもと、い

つの時代にも伸び伸びと行動する西高生との出会い、また多くの素晴らしい同僚との出会いは、古希を迎えた私にとって貴重な財産となっております。四年前に東海大学を定年、現在は非常勤で勤務していますが、西高卒の学生に会うと、つい声を掛けてしまうこの頃です。

恩師からの メッセージ

閑中忙話

恩師 鈴木 史朗
(昭和三年〜四一年・英語)

釧路市内に春採湖という湖がある。近頃めっきり足腰が衰えてきたので、週一、二回程度一周四・八キロある湖畔を歩くことにしている。わが家から湖までは二キロほどあり、これも徒歩で往復すると九キロ弱になる。四季刻々と変化してゆく、湖畔の



鈴木先生の近影

草木、湖面に浮かぶ水鳥たち、水中を泳ぐ魚たちを眺めるのは至福の極みであると思う。

西高を離れたのは一九六六(昭和四一)年で、北教大釧路校を定年退官したのは一九九六年であった。その後釧路短大に八年間勤務して、七一才で退職し、職業欄に「無職」と記入する身分になった。しかし創立の時からかわつてきた釧路公立大学には今も週一回出講している。七九歳の後期高齢者にとっては、これが唯一の若者たちとの接点でもある。

「悠々自適ですか」と人に問われることが多い。種々の市民運動などにもかかわつていて、そのうちの二つの会の会長や代表を引き受けているので、「悠々」とは程遠い。とはいえ、もう二〇年以上も続いている、女性の読書サークルの講師をさせていただいている。原書で英米文学の作品を読んでいるグループである。年齢的には、私よりずっと若い女性たちに囲まれて小説を読むのは楽しいことだし、またボケ防止にもなるのではと思っている。

校歌のおはなし



恩師 齋藤 潤
(昭和三年・
五七年・音楽)

戦後、学制が変わり新制中学

や新制高校の校歌が盛んに作られました。西高でも、昭和二十八年(一九五三年)八月に制定されました。作詞は、第三師範学校(現教育大旭川校)の国文学教授清水重道氏、作曲は信時潔氏です。大正から昭和初期にかけて活躍した作曲界の重鎮で、独唱曲や合唱曲の作曲で、作品には「海行かば」や「海道東征」などがあり有名です。また、啓明小と永山中学の校歌もこの両氏によるもので、その歌詞には、「大雪」「石狩」「鈴蘭」が取り入れられています。

西高が五条四丁目にあったころ、校歌は、始業式や終業式などの全校集会でよく歌われていました。伴奏にはベヒシユタインが使われました。音楽室から音楽部の男子によって狭い渡り廊下を通じて体育館に運び込まれたのです。今もそのピアノは同窓会会館に保存されています。が、側面についた傷痕は、女子便所前の狭い渡り廊下の壁にあった掃除用具かけの釘にひっかけてついたものです。

二つの校歌、現在の校歌と女学校時代の校歌を使って行進曲を作ることになり、その編曲を《行進曲「大空」》で有名な須磨洋朔氏に依頼しました。編曲が出来上がったとき、わざわざ演奏指導にまで来てくれました。吹奏楽による西高行進曲です。また、七十周年記念のときには、漢字が少なくやさしく歌える学園歌を、作曲家広瀬量平氏に依

頼して作りましたが、記念式で発表しただけで、その後、なぜか歌われていないようです。

次も、校歌に纏わるおはなしです。一九六八〜一九七〇年に吹き荒れた大学紛争のトバッチリが西高にもやってきました。制帽廃止要求の集会や卒業式ボイコットなどがあった頃のことです。：競う学び舎：、：映す学び舎：、：比ふ学び舎：の次に、合いの手(?)、もとも同伴奏部にはアクセントが表示されているのですが。この不自然な合いの手(?)は何年か流行りましたが、石狩川を渡って川端町の新校舎まではやってこなかったのです。

黄色いボールを追って



恩師 林 力 (昭和四五年、五二年・英語)

旭川西高東京同窓会第三〇回総会おめでとうございます。第二五回同窓会にお招きいただき有難うございました。自由闊達の校風のもとで勉強した西高出身者が主催するイベントはさすがだなと感動しました。旭川西高から函館西高、札幌啓成高と在籍し退職。そして五年間札幌日大高にお世話になり、教職を後にしました。退職後は社会に恩返ししよう地域内の会長などボランティア活動を

しました。見聞を広めようと世界に足を運びました。アメリカ、ブラジル、ペルー、南アフリカ、中国等の異文化に接し、大いにカルチャーショックを受けました。七〇歳からは新卓球ラージボール(公式卓球ボールより四ミリ大きいボール)を練習し始め、全国各地の大会に出場しています。特に平成一九年度、二〇年度全国ラージボール大会に出場し、一四〇歳ミックスダブルスにおいて優勝しました。また第二一回全国健康福祉祭ねりんピック鹿児島二〇〇八に札幌市の選手団の一員として参加し、第三位を獲得しました。

いまは妻と炊事係を分け合って健康を第一に古い先を考えながら四四ミリの黄色いボールを追いつつ追いつもりです。同窓会が成功裏に終了することを祈念しています。

札幌からの便り

第二八回 定期総会を終えて



旭川西高(庁立旭女含む)札幌会長 十一期 石倉 宣昭

東京同窓会の皆様、設立三十年おめでとうございます。心よりお祝い申し上げます。札幌

会は、故藤木先生(数学)並びに札幌在住の一期〜三期の諸先輩の方々の努力により、昭和五十九年四月に設立されました。私事で恐縮ですが、私は昭和五十九年四月に赴任先の函館から札幌に戻ってきたところでした。間もなく、職場に同期の女性から電話があつて、札幌会の役員幹事会に顔を出したのが始まりでした。以来、設立から、今回の第二八回総会迄毎年出席してきました。第十六回総会(平成十一年七月二十五日)では、北海道庁立旭川高等学校札幌総会と合流しました。以来多大なるご支援、ご協力をいただき

てきましたが、次回(第二十八回)以降の総会の出席は、高齢と体力の衰えにより辞退したいとお話がありました。これ迄、庁立旭女の方々には、総会に毎年八〜十名必ず出席いただいていたものでした。私共としては、非常に残念ながら致し方なく、このお話しをお受けしたものでした。この為か、今年の二十八回総会の出席者数は七十二名とこれ迄の最少を記録しました。札幌会としては、若い期の会員を一人でも二人でも増やすことに向け努力していきたいと考えております。貴同窓会の今後益々のご発展を祈念申し上げます。

旭川からの便り

我が故郷は、蕎麦の里



十四期 岸上 護

私は旭川の企業を退職後、平成十年から十一年間埼玉のレストランに勤務した。

社内では「お客様に支持されるメニュー」開発が続いていた。北海道のある店舗から「北海道そばメニュー」をやりたいとの提案が・・・器は四角い板づくりその器の値がとも高いく本部は採算が合わないからダメ。あきらめ切れぬ店長は自店舗で試験販売をやりたいと提案：「そこまで言うなら「やってみよう」ということで、「幌加内そば」を販売開始。これが意外に売れた。関東でも売り出したところ爆発的に売れた。在庫は底をつき、次に北竜そば、次に東川産の大雪山そば、我がふるさと旭川圏のそばシリーズは関東の人々に絶大な支持を得た。私は平成二一年にレストランを退職後旭川にUターン。関東の大会で支持される北海道の農産品について深く知りたいと思い、「北海道フードマイスター」なる資格をとり、江丹別若者の里の「そば打ち」にも

参加した。そこで知り得たことは・・・

幌加内、深川北竜、旭川江丹別・・・ここは日本一の蕎麦生産地。日本で生産される蕎麦の三〇%、七千tがここで生産されている。今や旭川圏の蕎麦は引つ張りだ。でも、こんな蕎麦農家でも離農が絶えない現実を聞かされ心が痛んだ。

「そば」は低カロリーで腹持ちがよく、ダイエット、血圧、糖尿に良いと言われる健康食品。何とか、蕎麦農家が経済的に繁栄し、若者が移入増加するよう、経済の仕組みを期待したい。また、ぜひ「そば打ち」を経験してほしい。江丹別若者センターには蕎麦打ち道具がそろい、指導者も常時いる。蕎麦の香りに包まれながら、自分の打った蕎麦は、なんと美味しいことか。そのおいしい蕎麦を家族に提供して、「おとうさん見直した」といわれている仲間が周りになんと増えていることか。



江丹別蕎麦の花風景

各期の 皆さんから(1)

雪下駄の音

二期 中野 年

今年旭川に帰郷した同期の茅森君から、「昨夜は五十センチの雪、いよいよ根雪・・・」と便りが届いた。消えかけた子供の頃の旭川の冬の記憶が甦えつつきた。子供の頃、大人の女性は和服が生活着、和服の上から「カクマキ」を羽織って、下駄履きで雪道を歩いていった。下駄の歯に滑り止めの鉄製の爪を付け、つま先には皮の覆い(ツマ皮)を付けた、そんな下駄だ。旭川の雪は寒さで粘りが無い。踏み固められた雪道を歩くと、キュツと音がする。爪の付いた雪下駄はキュツキュツと凍付く寒空に良く響いた。子供の頃、一人で家の留守番をしている時など外の雪道を歩く下駄の音に耳を澄ましていたものだ。遠くでキュツキュツという音が聞こえ始める。「あ、きつと母の下駄音だ」。音がだんだん近くなり家の前で止まる。玄関のドアが開く。「ただ今」と帰ってきた母親の声にほっとしたものだ。「雪下駄の音」、雪国旭川で生まれた昭和ヒト柄生まれのオジサンの子供の頃の記憶です。

三〇〇回記念総会を迎えて

二期 茂野彰一郎

思えば昭和五八年の第一回総会を開催するに当たり、前年の五七年に初代会長の高野氏、二代会長の横峰氏等一〇人位が四谷の主婦会館に集まり同窓会設立の話し合いを行い、翌五八年に市ヶ谷の番町共済会館で記念すべき第一回の旗揚げを行い、以後毎年春に総会が行われるようになりました。

第七回までは東京支部という名称でしたが第八回総会から東京同窓会という名称に変わりました。発足当時は幹事会を開くにも運営資金不足で幹事一人一人から会費を徴収して打合わせをやっていました。今では運営資金も出来、正常化しましたのも多くの同窓生の総会参加への熱意があったればこそと思います。しかし本会も高齢化の進行が始まっており主体をなしていた一〇期生以前の同窓生の年齢も七〇歳を越えるようになり年々参加数減少傾向にあります。毎回幹事会でも若年層への呼びかけをしています。なかなか思い通りにゆかず難航しています。会を永く存続させるためにも参加人数に見合った会場で堅実にやっていく時機がきていると思います。会の益々の発展を祈っています。

東日本太平洋大地震

(二〇一一年三月二日)



十四期 眞田 徳雄

宮城県七ヶ浜町は仙台市に隣接し、切り餅のような形をして北東に向かって太平洋に突き出ている。七つの漁港を有し、観光地松島へは陸路でも十キロと近い。人口は二万(六五〇〇世帯)。津波で、全面積の三分の一(四二平方キロ)が浸水し、家屋の流失・全壊六五〇戸、半壊三〇〇戸、直後の避難者六一〇〇人(三六ヶ所)であった。死者が少なくすんだのは、漁業に携わる人の習いが避難を早めさせたからである。

非常リックを背にし、隣人と連れだって二百メートル後方の高台(海拔三〇メートル)へ急ぐ。地震発生から四〇分後に到来した第一津波は高さ一〇メートルを超え、防波堤(高さ六メートル)をひと飲みし、防潮流林や家屋、田圃を押し流し、一キロ先の我ら団地の土留め(高さ四メートル)で止まった。その三〇分後に到来した第二波は土留めを乗り越えて、銀行・食品スーパーなど商業施設を浸水させた。この時は、雲があつたため薄暗い。高台を囲む樹木と降りだした雪とに遮られて直接見えない。

かなり時間がかかった。電気の復旧は四日目。水道(二五日)、都市ガス(二七日)、灯油・ガソリン随時購入(二八日)。電話(四〇日)、商業施設(五〇日)、インターネット(百日)。中学校など大型公共施設は復旧工事進行中。この間、気遣ってくる西高同期のいることに元気づけられた。

地震発生から八ヶ月経過したいまも、瓦礫置き場へダンブがのぼっていく。仮設住宅やアパートでの仮住まいを余儀なくしている人達が、家財の全てや肉親を失った困難に正面から向き合っている、その姿に胸を打たれる。

午後二時四六分、マグニチュード・九。ユレに襲われたのは、用を済ましてズボンのベルトを締め終えた時である。軽い揺れが数秒続いたあと、それは突然だった。狭い空間で、両腕を左右いっぱい伸ばし壁を押しもどす。潰される、思わず発した、「アァー、アァー...」。

ユレが弱まった合間をぬってトイレを脱出する。外では電線が大きく揺れ、町広報のスピーカーが、津波の危険を報じている。厚手のコートを着込み、家内と二人それぞれ

三日目に、津波注意報解除を聞き届けて、被害を免れた我が家に戻るが、頻繁に起こる余震のたびに身構え、ロウソクと懐中電灯、携帯ラジオ、旧式石油ストーブ(暖房・炊飯)の生活である。一〇リットルの飲料水を得るために、給水車に一時間並ぶ。隣町の食料品スーパーに出かけて二時間並んでも、手にする量は限られる。幹線道路が寸断されて十分な物資が来ないのだ。

その後のインフラの復旧・応急手当には、海岸地区に比べて被害の小さかった我ら団地でさえ



津波避難所(海岸線から三百メートル)へ通じる崖中腹から撮影した七ヶ浜町富浦田浜地区。画面左上が富浦田浜方面。松林の樹高八十二メートル。画面視野にあった約七十戸の家屋は倒壊流失し、二棟のコンクリート建物(湯水ポンプ場と資材倉庫)が残った。
二〇一一年三月十五日著者撮影

各期の 皆さんから(2)

東日本大震災に思う

五期 岩田 幹夫

今回の大震災、自衛隊十万余名、即応自衛官七千名派遣、米軍との合同救助作業は国民の皆様が評価しています。一方報道されていませんが、自衛隊派遣部隊の家族が約四百名犠牲になっている厳しい現実があります。

先日、東京湾から都心を見る機会がありました。暗く明るさが従来の五分の一、東京タワーだけが目立っていました。走ったレインボーブリッジも、第三京浜(東京ー横浜間)も暗く、百歩^歩走行は危険を感じました。昔、西高に入学する前、「ローソク送電」を思い出しました。これは電圧を下げローソクの明るさにし節電する方法です。現在では全ての電気製品が動かさないでしょう。

高層ビルでは幅約二メートルの揺れがあり「生きた心地がしなかった」と友人が話していました。自然の驚異に対応する心構えを持ちたいと思います。

現在、地域交通安全活動推進委員(東京都公安委員会から委嘱)、自衛官募集相談員、と地域

のために頑張っています。警察から交通安全章緑十字章、(社)全国自衛隊父母会から表彰状、防衛省自衛隊東部方面総監(陸将)から感謝状を戴きました。

青春の思い出

七期 衣山 溪子

旭川西高は青春の思い出の地。父の転勤で旭川に来たのは二年生の夏でした。学校祭の前夜祭に行われた万灯行列で夜の街を練り歩いた事や、卒業生を送る予餞会に紋付袴姿で螢の光を黒田節の替え歌で踊った事など懐かしく思い出されます。

古希を過ぎ、三月十一日の大地震と原発事故で何かが変わってしまった。豊富な果物も海の幸、山の幸も怖くて食べられないと若い人たちは県外へ出て行き、孫たちも来ません。家族の団欒をすっかり壊されてしまいました。悲しく悔しいです。原発はいりませんと叫んでいますが。地震国に五十四基もの原発があるとは驚きです。原発に依存しない社会にしていきたいです。《福島在住…編集部追記》

第七期・東京同期会の発足

七期 赤倉 正彦

記念すべき第三〇回東京同期会総会を迎えるにあたり、第七期の東京同期会発足時のことに

ふれたいと思います。第二回同期会幹事となったこの会の中核の廣野君をはじめとして、菊地・白石・阿部・長谷川君そして女性群、小菅・高木・松本(秀)

さんらの協力により、当時拓銀東京勤務だった初代幹事故中原君(H二二年)が、当時三七才まさに仕事に燃えた同期生の故郷旭川を思う望郷の気持ちと母校旭川西を愛する友情が再会によって高揚し、JR神田駅内喫茶店に再三の会合にて結集、熱血あふれる故山崎(瑛)・佐藤(竹)両君はじめ国安・藤井・松本(勲)・塚田・今・西谷・渡辺(次)・河野君(第十回までの幹事)の方々の活躍により今日の第七期の土台が礎かれた。

小生発足当時、旭川勤務でした。全く貢献なしです。第七期の結集力は発足当時前後の皆さんの一生懸命な努力の賜物です。小生は、第七期生東京同期会三七回中まことに恥かしながらも少なく、諸先輩方々の活躍に心より敬意を表しています。とりわけ廣野君は三七回中一回しか欠席がないと云う怪物(?)がいます。小生去る十一月二六日開催の第三七回同期会の世話役の一人とさせていただきましたが、次の四月二一日の東京同期会総会は、今までの伝統・出席数ナンバーワンクラスになれませう、努力させてください。その後は第七期の一員として出席に努めたいと決意しています(今さら遅い!)と言われて

西高時代の想い出

八期 牧野 隆一

戦後間もなく私たち家族は引揚者として満州から福岡に上陸し、父の兄を頼って旭川に来ました。事務職であった父が開拓農家ということになり貧乏生活がズーツと続きました。そのよ

うな時代でしたから高校入学希望者も一クラスに数人でした。中学時代は野球をしていましたが、西高では体が小さいこともあって断念し美術部に入りました。年中行事として仮装行列のよ

同窓生万歳!

九期 嶋村 輝郎

卒業後、これだけ年数を経過していると同窓生の名前、顔など全く分らないでしょうね。

FoodFood & DrinkDrink Hasegawa
長谷川商事株式会社
 長谷川はるひ (24期)
 (旧姓 棟)
 〒410-1115 静岡県裾野市千福が丘1-18-5
 Tel/Fax 055-993-9863
 サファリパーク店 055-998-1378
 E-mail hasegawa-9863@ab.thn.ne.jp

水処理施設・設計・施工・維持管理
 **第一環境アクア株式会社**
 代表取締役 宇山 家昌 (16期)
 本社 東京都港区赤坂2-2-12 NFB赤坂山王スクエア
 〒107-0052 TEL 03-6277-7620 FAX 03-6277-7621

自由民主党副幹事長
 衆議院議員
今津 寛 (15期)
 <国会事務所>
 〒100-8981 東京都千代田区永田町2-2-1
 TEL/03-3508-7204 FAX/03-3508-3204
 <旭川事務所>
 〒070-0039 旭川市9条通9丁目53-30
 TEL/0166-22-6811 FAX/0166-22-8492
 http://www.hiroshi-i.net

でお世話になつて同窓生がい

は「新日鉄の仕事をした時、「鉄は国家なり」の時代だから、ずいぶんと威張られ、いつも悔しい思いをしていた時、いつもなだめてくれたのが同期の高橋啓悟さんだ。取締役を経て、日本電工の社長、会長を務められた。防衛の仕事では同期の牧山元(一等海佐)、三輪廣治(二等陸佐)さんがいた。牧山さんには江田島記念館を案内されたり、しらせの艦長で越冬隊を運んだ時持ち帰った南極の氷を戴いたりした。ある会社のパーティで「後輩です」と挨拶されたのが、東京貿易の立野嘉之さん(二期、取締役社長)。かつてIC機器の輸出でお世話になった会社だったのである。ICの製造装置では沖電気の伊野昌義さん(一三期、のちに専務取締役)。一台数億円する製品を沢山買っていたが、その代わり装置が停止しようものなら、ダイレクトに電話が入り、「先輩なんとかしてください」がいつもあった。

ある時、岡本工作機械からICにかかわる開発技術を譲り受けた。そこでは三期の先輩 高野健市監督役さんに出会う。若いゆく体の管理では痛研・有明病院副院長の山口俊晴さん(一七期、兼外科部長)に定期的に診てもらっている。山口さんはこの一月にNHK・Eテレ『今日の健康』に出演するなど多方面で活躍されている。

一昨年は白内障で同期の真鍋勉さんの手術を受けた。途端パアツと明るくなり喜んだが、彼も嬉しかったはずと確信している。このようにいろんな分野で活躍する西高同窓生がいたこと、いることを私は誇らしく思っている。

私服はセンスの磨き布

十期 村山 紀子

私が在籍していたのは今から半世紀以上も昔です。当時、西高には制服がありませんでした。その理由は『お洒落のセンスが磨かれる』『私服を着ていても規律は守れる』からだ、と私たちは思っていました。ダンディというあだ名のお洒落な先生のお考えだと言う噂もあり、私はダンディーに一目置いています。みんな、数少ない服でお洒落を工夫していたように思います。

卒業後三十周年記念同期会が東京で開催され、私は岡山から参加しました。同期生は一樣にグッドセンスでルックスヤングな紳士淑女となって現れ『私服はやっぱりセンスの磨き布だったわ』と私は確信しました。

西高モダン&西高パワー

十一期 築山 尚明
北の地より東京同窓会に出席

して十年になろうか。我々十一期生は谷本君の細やかな配慮により毎回二〇名前後の参加がある。

昔はモダンな上野精養軒での開催で「流石モダン西高!」であったが、最近では百段階段、三社祭り、今回はクルージングと各期幹事の洪さやモダンな企画が嬉しい。毎回一桁期先輩の自信溢れる言動に西高パワーを感じるのもいい。

五月に東京元気印十数名の参加もあり西高卒業五〇周年記念祝賀会を旭川で開催した。

六三名の出席者、先輩に負けないパワーが爆発した。母校訪問では同窓会館に各期の匂いが少しは残っていたがチョッピリ寂しい。しかしこれでいいのだらう。やはり年一度の西高モダンと西高パワーを感じるのには東京同窓会なのだから!

今、想う

十二期 安川 朋子

新緑の五月、神奈川の奥座敷湯河原川堰苑いすずホテルへ三々五々はるばる集まってきた面々は、懐かしさとめぐり逢えた安堵で、とびっきりの笑顔だった。

次回は東京でとの声を受け私たち東京十二期は、「卒業五十周年の集い」を実行すべく約一年半前から準備して来た。メンバーはばらばらの個性の集まりで、

近くはない距離を通つての試行錯誤を重ねた日々、やっと思通しがついたらと思つた矢先の未曾有の大震災。余りの惨劇にやっ

ていいかどうかの躊躇を乗り越えて辿り着いたその日であった。校歌斉唱から始まり、限りなく続く楽しい語らい、翌日の眩しい程の晴天の中歩いた湯河原・鎌倉散策。全てが夢のスクリーンを眺めるような独特の空気を醸し出す、掛けがえのない幸せの時間だったと思う。

今、現実には原発問題、TPP問題、タイの大洪水、為替、ユーロ問題など疲れる多くの課題を抱えている。

卒業以来物故者四十名、大切な人を失って生きていく哀しみを纏い、且つ夢が存在しやすいつ時代を生きて来た私たちが、こ



湯河原に集った12期の皆さん

れらにどう関わり未来に繋げていくかを考えると身の引き締まる思いである。

ガラパゴス都市 旭川からの脱却

十三期 綱島 正寛

南米エクアドルから九〇〇km沖合いにある太平洋上のガラパゴス諸島は良く知られております。その生き物から学び、ガラパゴス現象なる言葉が盛んに使われております。

日本は高度な技術に裏づけされた技術立国として世界から信頼を集めてきました。しかし、最近では高度な技術なるが故に広く世界に普及せず「特殊進化」し、日本の国の中でより通用しない「ガラパゴス現象化」を世界から指摘されはじめました。この事態を招かない最も効果的施策は、ヒト、カネ、モノの相互交流を世界中へと広げることです。

その意味では、故郷旭川の「ガラパゴス現象化」も気になります。旭川は今かつての勢いがな

らないうちに航空代金です。夫

婦で往復一四・五万円を下らない航空運賃はもう何年も続いていきます。夫婦で旭川に四・五日滞在しようものなら軽く三〇万円は飛んでしまします。今時、これで良いのだと市民が考えているのでしょうか。

必死に努力すれば格安航空券を手にすることが出来るのかも、誰でも故郷を訪ねることが出来なくて良いのでしょうか。この時代わずか一時間三〇分で行くことが出来る旭川まで気軽に行くことが出来ないのです。多くの人が旭川を訪ねる事が出来れば、買い物公園のシャッターが開き、さまざまなニーズに応える宿泊施設が増えます。レンタカーの利用者が増え、タクシートの乗客も増え、人が動き始めます。三・六街や料亭、花月、居酒屋、天金、に酔客が溢れ、銘酒、男山で旭川の味を堪能し、優佳良織、を手土産にし、はじめて経済効果が上がって来るのです。

東京は今、決して海外旅行ブームでは有りません。しかし、ハワイ、上海、ソウル、そしてシソガポールへと人は向いており、そこには単に観光に留まらず、さまざまなニーズが有るからからです。仕事、医療、ブライダル、休養、グルメそして観光です。旭川市民が何となく待ち続けても東京から人を惹きつける事は出来ないのです。歴史的経緯がある、北海道開拓時

代からの「補助金」依存体質の脱却が必要です。旭川市民自らが汗と知恵を絞り、さらに官民挙げてコストダウンを図る必要があります。ガラパゴス都市旭川と呼ばれる前に、いかに人を呼び込めるかを真剣に考えて欲しいものです。

A. B. C. からナマステ

十四期 佐藤 啓子

十一月にヒマラヤのアンナプルナ・ベースキャンプ(ABC標高四一三〇) 現地の人達は「聖地」と言う)へ行って来ました。

三年前の冬にエベレスト街道に挑戦し、予想をはるかに超えた寒さと高山病に苦しんだ経験から、今回は低酸素トレーニング・出発二ヶ月前からのウォーキングで体調を整え、コースも毎日ガイドと相談し修正しながら只々ひたすらに歩き続けた高齢者四人組です。

幸いにも好天続きで、前人未到の聖なる山マチャプチャレ(六九九三)の真赤に染った夕景は、信じ難いほどに鮮やかに美しく、目の眩むような絶壁の縁から仰ぎ見る八千の山は真白い雪と厳しい氷に覆われ、まさに神の世界でした。

「すごい!」としか言いようのない壮大さに涙ぐみ、震えるような感動と、そしてネパールの人達と同様に聖なる山に神を感

旭川西高東京同窓会創立のいきさつ 十四期 及川 茂

新緑の季節を迎えた四月の末ごろ、西高三期卒業の佐々木秀典弁護士と法律事務所を訪れる人がいた。四谷駅にほど近い新赤坂法律事務所にやって来たのは旭川西高第十六代校長の藤木利男先生であった。東京出張の際にかつての教え子の事務所を訪れたのである。昭和五六(一九八二)年のことである。藤木先生は佐々木さんが三年生の時の担任であった。

佐々木さんとの会談で藤木先生は早い時期に東京で旭川西高の東京同窓会をつくることを持ちかけた。二つ返事でこれに応えた佐々木さんは、そのうち各期の有志とともに、東京同窓会創立の準備にはいった。当初しばらく準備会の事務局は佐々木さんの法律事務所におかれた。準備が進んで各期からの有志が増えてくると打ち合わせの会場は新赤坂法律事務所の会議室から、近くの四谷駅前の主婦会館で開かれるようになった。こうして同窓会の初代会長には一期卒業で西高蹴球部(サッカー部)キャプテンだった高野哲男さん(当時五〇歳)が就任することに決まり、昭和五八(一九八三)年の二月五日に市ヶ谷の番町共済会館(現東京グリーンパレス)写真)で、旭川から藤木校長、山崎

寄稿文にも記されている。高野さんのあいさつ文では「藤木先生が、西高校長を一年後に退職されることが決まった五七年春頃から、在京の有志間で先生の在任中に何とか東京支部を結成し、総会を開催しよう」との機運が急速に盛り上がったと述べている。高野さんは同様の趣旨のことを初回の東京同窓会名簿の発行挨拶でも述べている。

一〇〇周年記念誌の掲載記事では、昭和五六年初頭の旭川西高職員室で時の藤木校長が「卒業生がこれだけ活躍している東京に同窓会が無いのはおかしい」との一言が東京同窓会創立にかかわるすべてのはじまりだったと書いています。藤木校長の一言には、その前年に多数の招待恩師を招き東京で盛大に開催した第一期卒業生の同期会の模様が影響していた。また、同記事では昭和五六年初から五七年にかけて各上層期の同期会が繰り返して開かれており、これらのことが五八年の同窓会結成の機運を醸成したと書いている。東京同窓会創立のいきさつには以上のように当時の藤木校長の存在が大きい。

雄二同窓会長(二期)ほかを招いて創立総会を開催することができた。参加者総数は二八五名と記録されている。当日は若い期の名簿編集委員六人衆が苦労してつくったずらんの校章が輝く同窓会名簿(一九八三年版)が参加者に配布された。



十五期からの近況報告

十五期 尾崎千恵子

今年には雑多な仕事で大忙し。今日実家から塩瓜、モロ粕がドカンと来てすぐ瓜を水につけた。ちよっと待って、塩ぬき二日水出し一日、漬ける日は?。店(ドトール)に行って夜は同期の集まり。瓜を水から出す。頭がクリアじゃないとやる事が雑。

でも一〇月は夫とカリフォルニアのヨセミテ国立公園に行ってきました。層雲峡の屏風岩のような山肌の巨大な山々、娘に頂上の尖ってる部分は氷河期に埋もれなかった所と言われ口がポカーン。そこに居るだけで気分爽快!帰りの車から「又来るね」と言いながら屋久島に行った時と同じ事言って一五年も経った事に気づく。文庫本持ってワクワクしながら乗ってた飛行機も今回は疲れるばかり。今度は国内で、しかも旭川で、見本林見物かな。

旭川西高東京十六期生の活動紹介

十六期 鈴木 雅喜

我々西高一六期生は今年で六四歳になり現役で働いている方、現役を退いた方、現在それ

ぞれの人生を歩んでいます。思えば我々は団塊のピーク世代であり、小学校から一クラス五〇人、六〇人で構成され、小学校で六クラス、中学校で一クラス、西高で九クラスと現在では想像もできないくらい人が多く、言わんや大学・社会に出ても今日まで無事に過ごして来た事を最近自分なりに感心しています。

私も今年からフリーの身になり、ゼミ会(大学時代のゼミの仲間)や会社のOB会や地域の仲間の会に出席しますが、やはり旭川西高の同期の仲間と会うのが一番心が休まります。私は旭川に一八歳まで住んでいましたが、同期の仲間と会うとすぐに四六年前の青春時代に戻り、ときどき北海道訛りの「なんもだ!」が出てしまい、皆さんから懐かしがられます。

一六期は、名幹事竹澤さんの提案により一〇年程前から毎年三回の恒例行事が今日まで続き、結束の硬い仲間が集い合っています。その恒例行事をご紹介しますと、春の西高総会後の同期会、夏の旅行、年末の忘年会、これが以前より継続されています。

昨年は東北旅行に行きました。今年度の旅行は七月一〇日(日)一一日(月)に実施され、同期の柴田君が伊豆長岡のホテルに現役で働いており今回お世話になりました。参加者は一六名で震

災にもかかわらず仙台や北海道や名古屋の仲間も駆け付けてくれました。

恒例になった旅行ですが、来年は六五歳を迎えるに当たり故郷「北海道旅行」と言う話も出ており、益々仲間の輪が広がることを期待します。

近況報告

十八期 山本まゆみ

比布から通学したゆるい高校生活。早弁、購買のパン、帰りのラーメンやうどん、キンギョの文芸部、もう少しまじめに勉強すべきでした。

親の意に反して上京してから、ご多分にもれず学園紛争、女性解放の洗礼を受け、卒後何を基軸に生きるか悩みました。さしあたり「経済的自立と子育て経験をする」方針のもと今日に至りました。昭和四十七年教員として入都。その後、障害児教育三十八年、定年退職後、嘱託三年目です。四人の子も育ち、孫六人。そろそろ嘱託終了後(六五歳)の生き方を考える時期でしょうか。体はくたびれましたが。

若いつて本当に他者にも自分にも残酷だったなあと反省するこのごろ。しかし定年まぢかには、職場のどの教員も可愛いと思える心境になりました。人生経験を経て少しずつ大人になれるものですね。

楽しみな同窓会

十九期 鈴木るり子

同窓会の参加は二十三年前、転勤で船橋市に来て、ピアノの調律に来てくれた方が先輩であつたことが始まりです。船橋の前は札幌に二年居ましたので、すっかり北海道弁になっていました。旭川に実家のない私には同窓会が故郷に思われます。毎年出会う友人との交流は懐かしく楽しみです。思いの外無口と思われていたらしい私。あの頃の私に出会う時でもありません。常盤公園のボートに乗った時、旭山公園に遊んだり、校舎の寒さには新聞紙の目貼りで対抗、書道の墨が摺っているうちにシャーベットになった事もありました。夜空の満天の星、大雪山の山並みも思い出します。交換日記を楽しんだ友人達が会

…元気で長生き!…

黒豆ポリフェノール飲料

高濃度微顆粒

クロマゲン6.0.0

Kuromagen Polyphenol Powder

第七期生 菊池 幸

菊池食品工業株式会社 代表取締役社長

本社:東京都板橋区大山東町9-9
フリーダイヤル 0120-028-960
マメニハ クロマゲ

北海食堂 カムイ

35期 秋山

北海道

日曜定休日
夜 17:00 ~ 22:30

〒270-0034 千葉県松戸市新松戸 1-354-2 2F
TEL 080-1216-8637

西門大

倶楽部(西四人)

ね、帰ろ、銀座の旭川に。

季節料理 いわ井

〒104-0061 東京都中央区銀座6-4-10 銀座シンヨール2F
Tel.03-3574-6406 西山敏江(比布出身です。お電話ください)

おうと誘ってくれています。是非参加したいと思っています。

各期の 皆さんから(3)

ヘルパーの喜び

二〇期 池上 章子

昨年末より、デイサービスで週三日仕事をしています。ヘルパーの資格を取り、ボランティアのような仕事をして五・六年、それが本格的仕事となり大変な事も多いのですが、喜びを得られるのも事実です。利用者様は旅行など無理な方がほとんどで、その方たちがあと一回だけ行けるとしたら「北海道」と答えた方が一番多く嬉しく思いました。その北海道で生まれ、その中心旭川西高で学び、今の私がある事に感謝しています。どんな絵本、新聞のコラムが皆さんに喜ばれるかしら……。そう考えながら図書館をさまよいい、家で朗読の練習をする日々です。

オーロラに魅せられて

二三期 堀 晃

何故か、部活動は、物理部で暗いクラブでした。それでも

友人が写真部にいて、暗室に入りをしていました。それが、今に繋がっているか?今、会社勤めをやめ、自分の好きな道と、写真を撮っています。今はアラスカに通ってオーロラを撮っています。寒い夜空を見上げ、ずーっと出現を待ちます。そして、夜空に広がる光の帯を観たときの感激!それをカメラに収めています。数年前、北海道でもオーロラが出たとの報道がありました。いつか、北海道の空で観るのを夢みながらつけています。



幻想的なアラスカのオーロラ(22期 堀晃さん撮影)

旧校舎の思い出

二三期 田中 康文

私が西高に入学したのは昭和四五年である。当時の所在地は五条四丁目、現在は勤労者福祉

会館などが建っている場所である。木造モルタル二階建(一部三階)のかなり歴史を感じる建物であった。三階建の部分は比較的新しく見えたが、昭和四〇年の火災で一部校舎を焼失したため建て増された教室であった。

その三階には三年生の教室が並んでいたが、昭和四六年に西高全体が川端町の新校舎へ移転したため当時二年生の私は一度も足を踏み入れずに終わった場所である。

数年さかのぼった冬のことである。西高の隣にある日章小に通っていた私は西高前の道路で友達と雪まみれになって遊んでいた。その時大きな歓声が上の方で湧きあがり見上げた瞬間、校舎の三階の窓から飛び出した黒い学生服が目に見え込んだ。呆然と見上げていたが、その学生服は校舎前の雪の山の上で腰まで雪に埋まったまま、拳を突き上げ雄叫びを上げた。良く見るとその手には数枚の百円札が握られている。三階では再び大きな歓声が沸き起こった。その場所は屋根から降ろした雪が集められ山になっている場所で、三階から飛び降りられるかどうか賭けをしていたらしい。

その時何故か、面白い!と思えば本心にワクワクしてしまった。今考えるとあのワクワク感が西高に進学したいと思った原動力かもしれない。

西高魂

二六期 近藤 光則

卒業し三五年後に初めて母校西高を訪れた。「研学・高邁・深刺」の額が校長室に掲げられていた。校舎も新しくなって後輩生徒の制服も替わっておりどこか縁もゆかりもない学校に来たようだったが額の文字を目にし「西高に帰ってきたのだ」という気持ちになった。

第二七回東京同窓会総会実行委員長を仰せつかった時、帰旭し総会でのイベントの依頼や小林校長先生(当時)への挨拶も兼ねて訪れた際の話だ。

校歌に詠われている研学・高邁・深刺は同窓生共有の精神的な指針のように思われる。高校卒業し上京以来、世間の荒波にもまれても努力し誇りを失わず元気にやってこられたのも、この西高魂があったお陰かとも考える今日この頃である。

昨年の旭川西高

東京同窓会総会

二八期 坂田 章吉

昨年の第二九回旭川西高東京同窓会総会は、私たち二八期が実行期でしたが、準備の途中に東日本大震災が発生しました。被災者には卒業生も含まれ、被災者の気持ちを考えれば自粛すべきではないか、また、開催し

ても何人が集まってくれるかからない等、様々な議論を繰り返しました。熟慮の末、震災復興に寄与することを念頭において開催することとし、当日は、大勢の方に集まっていただきました。出席して頂きました同窓生の皆様、また、人数の少ない実行期をサポートして頂きました執行部、各期幹事の皆様にお礼を申し上げます。また、東北が元気になることを願っています。

私自身は、同窓会当日にどうしても出席しなければならぬ仕事があり、参加できませんでしたが、翌日は、札幌から参加頂いた恩師の佐藤忠雄先生に三三年ぶりにお会いし、楽しい時間を過ごすことができました。今年も、懐かしい方々と再会し、元気を貰いましょう。同窓生の皆さん、さあ、東京同窓会に行きましょう。

祝

第30回東京同窓会総会

9期 東京同期会

連載第25回

記憶の中の旭川 青春の形見

三期 大内 秀夫

わが家の古い引き出しの奥から、金ボタンが二コ、出てきた。

旭川西高の学生服のボタンである。

浮彫りになっている校章のまわりは緑青が吹き、包んであった紙も黄色く変色していた。

西高卒業以来だから、もう六十年振りの再会、こんなところにいたのか、と思わず声をかけた。忘れられないボタンである。

終戦後、間もない高校生だった。

まだ、日本国中混沌とした中にあり、すべてが不足し、食べることに精一杯。

そんな時代でも、若いということとは素晴らしい。無ければ無いなりに、考え工夫し、お洒落さえして、青春を謳歌していた。

現代と違って、TシャツもGパンもなく、下着はメリヤスのシャツぐらい、友だちの中には、裸の上に直に学生服を着ていた輩カラ(もう死語だが)な奴もいた。詰め襟にセルロイド(プラスチック)はまだなかったの白いカラーをのぞかせ、遊びに行く時でさえ制帽をかぶり、腰には日本手拭い。夏は鼠色の学生服。帽子に白い布をかぶせ、歯の高足駄を履き、本を読みながら道

を真っ直ぐ歩いてきた。あこがれていた戦前の旧制中学生そのままに。

女子生徒も、町中の学校だったから何となくお洒落、垢抜けていた。

雪が溶け、長靴から下駄履きになり真っ白い素足が眩しかった。

お袋がよく言っていた。

あの時代のあんな達は凛々しかった。だから街の人たちは学生さんと呼んでいた。今はナイモノはない時代だが、逆に夢も憧れるモノもないのかね。学生も無職とせ、渡世の人みたいな恰好していて、あたし達には区別がつかないよ。あんな達の学生時代が懐かしい、と。

その学生時代。

仲良くしていた女子生徒がいた。明るく積極的で、ほんやりしていたこっちは、引きずられっぱなしだった。

終戦すぐの昭和二十四年封切りの大ヒット映画「青い山脈」の新子役のニューフェイスに、感じが似ていなくもなかった。

その新子が、或る日突然、

この本、読みなさい。あだし感激して、夕べひと晩寝られなかった……。

と、一冊の本を胸に押しつけてきた。本の題名も忘れたが、内容は、

卒業式の朝、女子生徒が好きだった男子生徒に、

もう逢えないかも知れないから、形見に胸のボタンがほしい。

と言われ、男子生徒は胸のボタンを引き千切って渡す……。

昭和二十八年、西高卒業の朝のこと。はなにも記憶がない。

新子と逢ったのか、何を話したのか、まるで覚えていない。

ただ、形見にボタンがほしい、とは言われなかったのだから。

ここにそのボタンがあるのだから。

その後、新子とは逢うこともなかったが、六十年経った今も、青い山脈の曲が流れると、ふと……。



uni.plan ユニバーサルプランニング株式会社 代表取締役 小林 信雄 (21期) 〒171-0033 東京都豊島区高田3-31-5 TEL.03-3984-4405(建築部) TEL.03-3980-6200(土木部) FAX.03-3984-4415 E-mail:kobayashi.n@univ-plan.co.jp

新しいお墓のかたち 東京浅草の木代供養墓 真宗大谷派 勝龍山 等覚寺 東京都台東区元浅草2-10-17 03-3841-2844 www.tokakuji.com 旭川 豊(20期)在住のお客

デザイン工房 SUBARU 工房&ギャラリー ハンドメイドインテリア用品 デザイン/製作/展示/販売 20期 松田広昭 TEL.090-4028-5241 E-mail: matsuda@za3.so-net.ne.jp URL: http://www.design-subaru.com 〒409-1501 山梨県北杜市大泉町西丹井出 8240-1

北海道伝統美術工芸村 優眼織工芸館 国際染織美術館 雪の美術館 〒070-8567 旭州市南が丘3丁目1-1 Tel. 0166(62)8811 館長 木内 和博 (15期)

ACC 旭川コーチングクラブ Coaching Program コーチングセミナー コーチング研修(教員・PTA) スクールコーチ養成講座 Personal Session ライフコーチング/キャリアコーチング デイマティク・メソッド Other Program チェンジ・サ・ドリームシンポジウム 旭川コーチングクラブ代表 日本スクールコーチ協会北海道支部長 山崎脩五 22期 shugoya@gmail.com

Lokyo Bay Premium Cruise 特別な日は、海の上で 011-822-1111 東京ヴァンテアンクルーズ株式会社

二九回総会報告

二九回総会 実行委員長

二八期 作田 雅弘

東日本大震災から、早くも一年が過ぎようとしています。みなさまのご協力により、震災から、わずか二ヵ月後に第二九回総会を開催し、参加者二八〇人で無事終えることができました。この場をお借りして、改めて御礼を申し上げます。

当初、「浅草で三社祭の日に、本物の神輿と完成直前のスカイツリーを見ながら、江戸情緒を楽しもう」という企画を提案し、諸先輩にたくさん賛同をいただきました。これは、多くの先輩方に参加していただくと共に、参加者の少ない後輩たちが同窓会に少しでも興味を持ち、参加するきっかけになるようにと考



28期・実行委員の皆さん



盛大に開かれた29回総会の模様

えたプランです。

このペースには、後輩たちの参加者数と参加期を増やし、後輩たちが実行期になった時には、少人数でもあまり負担感がなく、楽しく総会の準備が出来るように考えたからです。そのため、「西高通信の製作」と「広告費の担当」を、二八期実行期から執行部の担当へ変更する、と言う提案を受け入れていただき、結果的に、少ないメンバーでも実施することができました。

当初の三社祭の企画では、四〇〇人以上の参加者を狙っていましたが、四〇〇人以上の参加者を維持して、いずれは会費が

五〇〇〇円ぐらいの、負担感の少ない、気軽に参加できる総会にしたいと考えていたからです。しかし、三月一日以降、このアイデアは幻になってしまいました。しかし、二九回総会は、いろいろな意味で記憶に残る総会だったと思います。震災後、幹事会の手配や西高通信の発送、総会開催の有無、内容の構築など、執行部・実行期は、不確定な状況に全力を挙げて対応しました。また、総会の日に会場で披露するため、一八期の先輩を中心に有志が集まり、「雨ニモ負ケズ」を朗読してDVDを作成しました。当日は、被災した同窓生へ応援の気持ちを込めて全

員で「上を向いて歩こう」も合唱しました。そして、何よりも、被災した同窓生から届いたメッセージと、当日総会に参加していただいた先輩には、大変、感謝しています。

また、当日会場で集めた義援金は二〇〇万円以上になり、あしなが育英会へ届けました。被災地では、今も多くの方が、仮設住宅で暮らし、放射性物質のため、住んでいた町や村に戻れない状況が続いています。これからも被災者・被災地への応援を続けることが大切だと感じつつ、「同窓会」って何だろう」って、改めて考えています。

平成22年度 旭川西高東京同窓会 会計報告 (平成22年5月1日～平成23年5月31日)

科目	金額 (単位 円)
平成23年7月27日	
収入の部	
前年度繰越金	2,468,157
年会費 29回総会出席者当日分 234人	234,000
年会費 振込及び現金受領分 420人	423,000
29回総会剰余金	244,344
西高通信広告・協賛金	442,000
雑収入	11,518
東日本大震災義援金	397,567
収入計	4,220,586
支出の部	
総会費	123,875
西高通信製作・配布費	267,773
通信費	44,985
印刷・事務用品費	11,780
会議費	110,990
ウェブサイト維持費	120,000
慶弔費	0
雑費	5,167
東日本大震災義援金	647,567
次年度繰越金	2,888,449
支出計	4,220,586
監査報告	
会計報告書は証憑書類と照合し、精査の結果正確なることを確認いたしました。	
旭川西高東京同窓会 監事 阿部 従道 (13期)	

突然の依頼にも拘らず快くお引き受け頂き寄稿して下さいました皆様へ感謝。バックNoも読み返し三〇年を振り返る良い時となった。では、ヴァンティアンクルーズで「再びの船出」を。(い)▼三〇回総会を記念する今号には多くの原稿が集まった。それぞれに旭川と母校に対するかわらぬあつい想いを感ずることができた。寄せられた「原稿」に感謝。(お)▼一五年振りの編集作業。あの時の苦労は忘れており、何をどうすれば良いのか戸惑う日々だったが、楽しませて貰った。三〇回記念の総会にこの様な形で関わらせてくれた実行委員長に感謝!(く)▼ゲラ刷りと元原稿をアップしたGメールや電子メールをフル活用。離れ住む多くの同期生が協力した編集作業。十四期の団結力と通信手段の発達に万歳!(な)

第30回記念総会にご協賛戴いた皆さん

- 13期 網島 正寛 様
- 14期 東京三九楽会 御一同 様
- 18期 御一同 様
- 18期 渋谷 正利 様

編集後記